# 「中部建築賞」40周年

# 建築の社会的使命と可能性　啓発の光 絶やすことなく

中部圏９県域において地域社会の発展に貢献する建築作品を表彰してきた「中部建築賞」が第40回を迎えた。1969年に創設された同賞は、今日、全国にある建築賞の先駆けであり、民間の建築関連団体21団体による中部建築賞協議会を構成し自主運営する広域性と独自性、また建築主・設計者・施工者の三者をともに顕彰する不撓不屈の精神の下で歴史を刻んできた。固有の風土・文化を背景に誕生した作品群は、今日も色褪せることなくそれぞれの都市、生活圏に深く根を下ろしている。建築の社会的使命と可能性を強く自覚し、長きにわたって啓発の光を当て続けてきた中部建築賞の理念を力強く未来に引き継ぎ、次の10年、半世紀を目指す方向性をいま一度確認するため、中部建築賞協議会、同運営委員会の協力の下、仙田満審査委員長、高橋靗一元審査委員長による特別座談会と寄稿により40周年を特集する。

## 中部圏の発展とともに

中部建築賞協議会会長　**小笠原　日出男**

中部建築賞は1969（昭和44）年に第1回を始めて、昨年で40回を数えるにいたりました。

中部圏の地域社会の発展に寄与したと認められる優秀な建築作品を表彰することを目的に実施され、これまでに3500余件の応募があり、822件を表彰してきました。

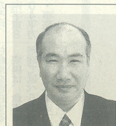
文字どおり、中部圏の発展とともに歩んだ40年でした。

特に本賞は、建築主、設計者、施工者の三者を表彰することによって、一般社会と建築プロフェッションとの結びつきを強め、建築が地域社会において重要な文化性を持っていることを広く一般に認めていただけることに役立ってきました。

中部建築賞は、中部開発センターを始め、21団体によって組織された「中部建築賞協議会」によって運営されていますが、今後、節目の第50回を目指して、さらに持続的な発展を遂げていくよう努めていきたいと思います。

## 愛され誇れる建築文化

中部地方整備局長　**佐藤　直良**



中部圏域の地域社会発展に寄与し、地域と環境に根ざした優れた作品を賛える中部建築賞が40回を迎えられるにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

中部地方はわが国のほぼ中央に位置し、日本アルプスに代表される山岳地帯や変化に富んだ海岸線などの極めて優れた自然環境と、人口集積のある大都市圏および工業生産機能の高い集積があり、かつ、多くの歴史的な建築物を有した地域であります。

建築文化を考えるに当たっては、近年の国民の価値観の高度化・多様化により、国土の質的な向上が強く求められる中で、地域環境や都市生活、景観との調和に配慮した創意工夫が必要となってきております。また、地域の中で育まれてきた歴史伝統を基礎とする固有の風景を大切にし、地域の景観を保全しつつ、また、創造することが大切になってきております。

一方で、昨今の大規模地震や集中豪雨などの自然災害にみますように、国民の「安全・安心」に対する関心が高まっており、また、魅力・活力のあるまちづくり、都市再生のための地域の建築物の水準向上など、これらに対する配慮も大きな柱となっております。

中部建築賞は、既に40年の歴史と実績をもち、多くの優れた作品を世に送り出してこられました。この点からも、この賞が中部地方の発展に果たしてきた役割は大きいといえましょう。

この建築賞によって優れた建築技術が蓄積されることにより、魅力・活力のあるまちづくりと、より市民に愛され、地域が誇れる建築文化の発展につながることを確信いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

中部建築賞40年の応募と受賞件数

| 回 | 年度 | 応募 | 入賞 | 入選 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1969 | 113 | 10 | 21 | 31 |
| 2 | 1970 | 76 | 12 | 15 | 27 |
| 3 | 1971 | 59 | 8 | 13 | 21 |
| 4 | 1972 | 71 | 10 | 13 | 25 |
| 5 | 1973 | 57 | 10 | 13 | 23 |
| 6 | 1974 | 64 | 9 | 16 | 25 |
| 7 | 1975 | 54 | 7 | 12 | 19 |
| 8 | 1976 | 80 | 6 | 15 | 21 |
| 9 | 1977 | 73 | 10 | 11 | 21 |
| 10 | 1978 | 82 | 8 | 11 | 19 |
| 11 | 1979 | 66 | 8 | 8 | 16 |
| 12 | 1980 | 86 | 10 | 11 | 21 |
| 13 | 1981 | 87 | 10 | 12 | 22 |
| 14 | 1982 | 87 | 10 | 11 | 21 |
| 15 | 1983 | 87 | 11 | 11 | 22 |
| 16 | 1984 | 96 | 10 | 10 | 20 |
| 17 | 1985 | 92 | 10 | 9 | 19 |
| 18 | 1986 | 109 | 9 | 17 | 26 |
| 19 | 1987 | 89 | 11 | 10 | 21 |
| 20 | 1988 | 105 | 12 | 10 | 22 |
| 21 | 1989 | 87 | 5+1 | 10+1 | 17 |
| 22 | 1990 | 82 | 3+1 | 13+0 | 17 |
| 23 | 1991 | 74 | 7+1 | 7+2 | 17 |
| 24 | 1992 | 77 | 7+0 | 9+1 | 17 |
| 25 | 1993 | 94 | 9+1 | 8+1 | 19 |
| 26 | 1994 | 125 | 11+1 | 9+3 | 23 |
| 27 | 1995 | 96 | 6+2 | 10+2 | 20 |
| 28 | 1996 | 118 | 11+1 | 7+3 | 22 |
| 29 | 1997 | 92 | 8+3 | 7+3 | 21 |
| 30 | 1998 | 109 | 8+1 | 9+1 | 19 |
| 31 | 1999 | 103 | 10+2 | 10+2 | 24 |
| 32 | 2000 | 90 | 6+7 | 10+0 | 23 |
| 33 | 2001 | 69 | 7+1 | 3+4 | 15 |
| 34 | 2002 | 106 | 4+3 | 7+3 | 17+1 |
| 35 | 2003 | 96 | 5+4 | 9+2 | 20+1 |
| 36 | 2004 | 101 | 4+2 | 7+2 | 15+2 |
| 37 | 2005 | 97 | 5+1 | 7+3 | 16+2 |
| 38 | 2006 | 93 | 4+0 | 9+2 | 15+2 |
| 39 | 2007 | 101 | 5+2 | 6+4 | 17+1 |
| 40 | 2008 | 88 | 11+3 | 0+1 | 15+2 |
|  |  | 3531 |  |  | 822 |

入賞、入選の「＋○」部分は住宅部門（第21回新設）、合計の「＋○」部分は特別賞（第34回新設）

◆中部建築賞協議会会員団体（順不同）

(財)中部開発センター
(財)愛知県建築住宅センター
(社)日本建築家協会東海支部
(社)日本建築家協会北陸支部
(社)日本建築協会東海支部
(社)愛知県建築設計事務所協会
(社)岐阜県建築士会
(社)静岡県建築設計事務所協会
(社)福井県建築士会
(社)三重県建築士事務所協会
(社)富山県建設業協会
(財)東海建築文化センター＝事務局
(財)静岡県建築住宅まちづくりセンター
(社)日本建築学会東海支部
(社)日本建築学会北陸支部
(社)愛知建築士会
(社)石川県建築士会
(社)静岡県建築士会
(社)富山県建築士会
(社)三重県建築士会
(社)愛知県建設業協会

◆中部建築賞協議会　運営委員会（委員名簿＝敬称略）

◇委員長＝南石周作（愛知）◇副委員長＝廣瀬高保（同）▷桜井好樹（同）▷栢本良三（同）◇委員＝中村貴雄（三重）▷澤田勝美（岐阜）▷相川幸吉（静岡）▷森川清和（福井）▷北村喜一（石川）▷小見美由紀（富山）▷兼氏康博（愛知）▷鈴木慶智（同）▷星野幸作（同）▷谷口勝彦（同）▷山内俊夫（同）

## 座談会

# 優れた建築を支え生み出す土壌

環境建築家、環境デザイン研究所会長、放送大学校教授

**仙田　満氏**

中部建築賞　審査委員長（第40回―）

**南石**　中部建築賞は、1969年度の創設から昨年で40周年を迎えました。皆様のお陰と存じます。

受賞した建物は、その折々の時代背景が刻まれた作品群であり、中部地域の素顔が、少なからず語られているかと思います。今回を一つの節目に、次のステップを目指すべく、審査委員長を務められたお立場から、ご意見やお気付きの点をご指摘いただきたいと思います。

仙田先生は、現在の審査委員長です。高橋先生は第24回から28回までの間、審査委員長を務められました。と言いましても、第一線で建築家として活躍しておられる立場ですから、応募する側からのご指摘もいただけると期待しています。

40年前の創設当時は全国でも類例がなく、先駆的な建築賞であったかと考えます。

### 伝統と活力に　歴史の重み

**仙田**　87年から92年の5年半、名古屋工業大学に在職していました。中心都市の名古屋は、人口も220万人ほどで過密でなく、とても生活しやすい街です。

中部全体も、太平洋側、日本海側、内陸域の都市それぞれが互いの特色を認め合いながら、それでいて適度な広がりを持ちつつ、結びついてきたという落ち着きを感じました。官公庁など役所と大学など研究機関が、とても緊密に交流し、地域づくりに取り組んでいるという印象でした。

中部建築賞は、対象エリアが9県に及ぶという、かなり広い面積を対象にした賞ですが、そうした地域の伝統や活力を反映し、長年継続されてきたのではないでしょうか。その歴史の重みからか、全国的な視野で捉えても、中部で仕事をするのなら、何とか受賞したいと考えるステータスが培われてきたように思います。

## 受賞目指すステータスが定着

私自身、大学に勤務していた時に応募した経験がありました。ちょうど高橋先生が審査委員長を務めておられたころです。大変光栄でしたね……。

**南石**　中部建築賞の母体である中部建築賞協議会は、各県および広域の財団法人や建築団体、建設業協会などで構成する民間の自主組織です。官庁主導や特定団体の賞ではなく、広域的かつ自主運営の立場で、地域の建築文化への寄与を目標に据えているというのが特色です。

そうした点で、審査は地域の視野にとらわれることなく、常に高い見識を求めてきた基本姿勢があり、歴代の審査委員長は日本の建築界のリーディングアーキテクトにお願いしてきました。高橋先生には、およそ10年余前に引き受けて頂いています。

### 民間の自主運営　広域的な立場堅持

**高橋**　指摘されたように、中部建築賞はとても素晴らしい賞ですね。今日全国にある建築賞のお手本、建築賞のパイオニアではないでしょうか。そして、とても大切な使命を担ってきた。建築に社会的な位置を与えようとする姿勢は、評価されなければならないと思います。私も中部とは切っても切れない関係があり、引き受けましたが、楽しい思い出ばかり残っています。

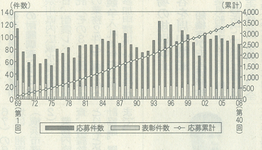
## 風土に根ざし風土を意識する建築は、それ自身が文化たり得る

そこで痛感したのは、中部における建築というのは、作品それぞれのというか、全体の傾向としてというべきなのか、多様で異なる理念・風土を本質に介在させている。例えば、太平洋側と日本海側を一体とする広がり、地形上で列島を横断していることなどが極めて重要な要素となって成立していると言えます。だから、非常に恵まれた条件であることを自覚し、建築文化を考えることができる、育てていく必要があります。

東京、大阪だけでなく、名古屋もそうですが、グローバリゼーションという言葉に誘われたような言語や形態が氾濫しています。そうした傾向は、元気さがあると思う半面、建築文化を背負うという責任からすると、文化的土壌に起因した何か、地域を語る固有の文脈に関連して果たすべき義務を疎かにしているのではないかという懸念を生じさせるのです。

メディアの影響もありますが、はっきり言うと、格好良く決めようとして、トレンドに引っぱられる。これから作品づくりを考えようとする若い人達を毒しています。売れる建築が良い建築ではありません。あからさまな表現ではなく、風土に根ざし、風土を意識した作品を、地域で生み出すようにしなければいけない。言い換えれば、建築それ自身が文化たり得るものであってほしい。中部建築賞は、ある意味でしっかりと根を下ろそうとする、抵抗の建築を支える必然性があるのです。

応募件数・累計、表彰件数の推移



# 全国の建築賞のパイオニア的存在

### 建築主、設計、施工ともに顕彰

**南石**　中部建築賞は「地域に貢献する」という主旨から、建築主、設計者、施工者の三者を顕彰することが、また一つの特色です。今おっしゃった意味で、中部建築賞は、建築主の参画を期待しつつ、設計者や施工者が協働してつくる優れた建築を求めています。言うなれば、三者それぞれの役割で「地域のために」という基本スタンスを堅持しています。

**仙田**　優れた建築を残すためには、優れたクライアントの存在が重要です。ヨーロッパの建築などパトロネージでつくられた建築は何百年も存在する。日本では近世以前に建築家はいなかったとされますが、重源（＊）とか小堀遠州（＊）などが傑出した仕事をしています。私は彼らを建築家的存在と呼んでいます。日本の建築家的存在は優れたクライアントがあって出現したのです。

中部建築賞においても、賞の受賞を我がことして喜ぶクライアントが数多く出てくることを目標にしたいと考えます。真の意味で文化となり得る建築は、クライアントがつくる、クライアントに誇りがなければできない、ということを強調しておかなければなりません。

**南石**　クライアントの強い自覚に支えられた作品が、より良い地域づくりにつながり、それによって新たな価値、新たな文化が形成される。中部建築賞は、三者それぞれを啓発すると同時に、優れたクライアントを育む契機にもなっていくというご指摘かもしれません。

第一工房代表、大阪芸術大学名誉教授

**高橋　靗一氏**

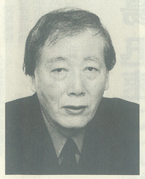
中部建築賞　元審査委員長（第24―28回）

### 独自性さらに強調　ぐらついてはダメ

**高橋**　それに加えて、賞の運営方法の独自性をさらに強調していくこと。中部建築賞の審査には、多くの審査委員が関わっていますが、もっと色濃く、この賞の方向性を持たせるべきです。中部建築賞の運営資金は、応募者から募っているのでしょう。そうした意味では、地域密着でよいのです。地域貢献を第一に考える。東京、大阪を見なくても、その土地に根付いた建築をつくり続けていくという信念が必要でしょう。

**仙田**　コンペやプロポーザルでは、その結果について審査委員が責任を持つことになります。判断を加え、価値を与えるのだから、審査される側だけでなく、審査する側が評価されるということになります。中部建築賞においてもしっかりした方向性を示すことが常に求められていくわけです。

**高橋**　審査員も個々の意見をバラバラにしていてはいけません。審査委員長は、他の賞がどんな傾向にあろうと、建築賞本来の意志、クライテリアを決めて、判断しないといけない。ぐらついてはダメです。



中部建築賞協議会運営委員会委員長

（司会）**南石　周作氏**

# 特徴ある地域の個性に期待

## 列島を横断、多様な建築を審査

**南石**　力強い言葉をいただきました。中部建築賞のいま一つの特色は中部9県域を対象にするという広域性です。地域の個性をつくる建築を目指せと指摘されました。広域にわたる運営アドバイスなどいかがでしょうか。

**高橋**　個人的には日本海側の建築が好きですね。それがおもしろいから見に行きたい。そうした気持ちがあったから大いに楽しんで審査できた。逆におもしろくないと審査は引き受けられないでしょう。恨まれるばかりだから。（笑）

列島を横断して、多様な建築を審査する。こんなユニークで特徴のある賞は他にありません。地域に貢献することの本質を評価する。言い換えれば、判断を下すための根拠がしっかりしている。それは、賞の意義を幅広く知らせる上で、代え難い武器になります。

### 賞の理念、意義を幅広くPR

**南石**　賞の理念、協議会の意義を改めて確認し、地域だけでなく、幅広く知られ、支持されるよう全国に向けて積極的にPRする姿勢も必要ですね。

## 雄大な山河、歴史の文脈、環境に向き合う

**仙田**　協議会21団体の努力、揺るがない審査によって、建築賞の名誉が重みを増す。それと同時に、優れた作品によって周辺の環境価値が向上し、経済的な価値も上昇するよう期待します。

古く伊勢神宮や熊野古道に代表される森林資源の中に育まれた文化性にも着目する必要があるでしょう。雄大な山々や大規模な河川、平野の広がり、どれをとっても素晴らしい地域を専有しているのです。環境にやさしい木材の有用性を考えることも必要です。これからの日本の、そして世界に誇りうる新しい建築様式をつくり出していく重要な場として、中部があるのではないでしょうか。

**南石**　たくさんの激励をいただいたと同時に、確認・共有して進むべき道筋を示していただいたのではないでしょうか。優秀な建築が増え、今後とも賞が「地域文化の語り部」となるよう祈念して止みません。中部建築賞の運営にはより多くの方々のご理解と参画、バックアップが不可欠です。次なる10年に向けて、今後とも、ご理解ご支援をお願いします。

本日は、どうもありがとうございました。

＊**重源**　1121―1206年。鎌倉初期の浄土宗の僧。東大寺造営の勧進職に就き、大仏様（よう）により「東大寺南大門」「浄土寺浄土堂」などを建築した。

＊**小堀遠州**　1579―1647年。江戸初期の茶人造園家。近江の人。豊臣、徳川に仕えた。作品は「慶長内史」「二条城・二の丸庭園」「大徳寺孤篷庵忘筌」など。

---

## 潤いあるまちづくり支援

（財）愛知県建築住宅センター　理事長　**山北　康雄**

中部建築賞が40周年を迎えられたことにお祝いを申し上げ、あわせて関係者の皆様のご尽力に敬意を表します。

当センターも建築および住宅の品質・性能の向上と発展を目指し、これらを取り巻く社会情勢の変化に対応して社会的要請に応えてまいります。

そのため、建物の計画・施工から供用・維持管理に関わるさまざまな事業を通して、安心・安全で潤いある住まい・まちづくりを積極的に支援してまいります。

## 建築を語り合う社会へ

（社）日本建築家協会東海支部　支部長　**服部　滋**

中部地方の建築界活性化のために設けられた賞も、すっかり定着した感があります。この間、建物を見る観点は個々の建物の善し悪しから、景観・環境への貢献度に移ってきています。日本では、学校教育でほとんど取り上げられないためか、一般の方々の自分たちの住む環境についての教養・関心は、残念ながらかなり低いと言わざるを得ません。

今後は、この賞がさらに広く認知されることにより、人々が自分たちの住む環境についてもっと語る社会になるようになってほしいものです。

## 大きな目標 権威高く

（社）日本建築協会東海支部　支部長　**佐伯　博**

中部建築賞は40周年を迎え、この中部圏で最も権威ある建築賞として位置付けられるようになり、建築に携わるものにとって大きな目標の一つとなってきました。

設計者、施主、施工者が同様に評価されることも、設計者だけでなく建築に関わるさまざまな人々で構成されている団体「日本建築協会」にとっては大変意義のある賞であると考えております。

今後はこの賞が建築関係者だけでなく一般の方々にも広く認知されるようになり、さらなる地域文化の醸成に寄与されることを願っております。

## 三位一体となり貢献

（社）愛知建築士会　会長　**市川　三千男**

中部建築賞は、その目的に沿った建築物を顕彰することにより、40年の長きにわたり建築文化の進展に寄与し、社会への貢献を果たしてまいりました。

われわれ団体が目的としているところも、この賞が目指しているところと同じであります。

優れた建築は、設計者のみならず、建築主、施工者の理解と協力により三位一体となって実現されるもので、それぞれに努力された賜として理解しております。

われわれとしても、この賞がさらに長く続き、社会へ貢献していくように努めてまいりたいと思います。

## 世界に誇る中部圏へ努力

（社）愛知県建築士事務所協会　会長　**岡田　利一**

中部建築賞が40周年の記念を迎えました。建築は、長い時間経過の中で、環境や生活と一体となり、地域文化を醸成していきます。私どもの行動理念である設計と監理の業務を通じて、期待に応え、地域社会の信頼と理解を得るように努めること、また自らの業務に対し常に知識を高め技術を練磨し、公益の立場に立って最善を尽くすことは、そのまま、本賞の目的とする地域文化の形成に重要な役割を果たすものと確信しております。

今後とも、本賞の精神を受け継ぎ、世界に誇る中部圏の実現に貢献するよう努力を続けてまいります。

## 社会、人々に夢と希望

（社）岐阜県建築士会　会長　**藤井　孝一**

優れた建築物は、地域社会の文化と活性化に貢献するものだと思います。立派で、良い建築のあるところには、地域の社会と人々に夢と希望を抱かせると思います。

中部建築賞は40年間の永きにわたって、地域文化の発展に貢献してきたと思います。このことは、建築に携わるものにとって、大変意義あるものだと思います。今後とも、さらに発展することを望みます。

## 環境、景観通じ一層寄与

（社）静岡県建築士会　会長　**大澤　稔**

中部地方の優れた建築物の発掘に、40年の永きにわたって携わられた多くの皆様のご努力に敬意を表し、感謝を申し上げる次第であります。

近年の優れた建築は、単に建築的にだけでなく、地域の環境や景観などを通じて地域社会の発展に貢献するものとして、一般の方々にも理解されつつあるのではないでしょうか。

中部建築賞が地域づくりという観点からの地域社会の発展に一層寄与されることを期待いたします。

---

## 中部建築賞　第31―40回

### 第31回

〈入賞〉▽老人保健施設相生▽瀬戸市立品野台小学校▽名古屋大林ビル▽賢島ミキハウス荘▽テクノプラザ▽研修センター　マイ・フレンド▽余呉やまなみセンター・はごろもホール▽福井県若狭湾エネルギー研究センター▽石川県ふれあい昆虫館▽長野市オリンピック記念アリーナ〈住宅部門・入賞〉▽岐阜の住宅／ホワイトステージ▽Ig〈入選〉▽CBC放送センター▽豊田参合館▽名古屋市立大学芸術工学部芸術工学棟▽愛知県立大学▽鈴鹿市考古博物館▽光記念館▽岐阜県交響楽団練習場▽鯖江スポーツ交流館▽松任市庁舎▽富山県国際健康プラザ〈住宅部門・入選〉▽山本邸▽O-House

### 第32回

〈入賞〉▽JRセントラルタワーズ▽岐阜市立女子短大移転改築▽麗澤瑞浪中学・高校第2体育館▽三ヶ日町立図書館▽富山国際会議場▽開運堂本店〈住宅部門・入賞〉▽雑木林にひそみ棲息する家▽中村中町の家▽火水庵▽伊勢の週末住宅▽M邸▽県産材の家・M邸▽珠洲の住宅〈入選〉▽師勝町総合福祉センター「もえの丘」▽東邦ガス知多緑浜工場管理センター▽高嶺下住宅（6軒長屋）▽知立市文化会館「パティオ池鯉鮒」▽岐阜県先端科学技術体験センター・サイエンスワールド▽愛東町総合福祉センターじゅぴあ▽兼六園長谷池周辺時雨亭・船之御亭▽鹿島町立あおば保育園▽大沢野町健康福祉センター▽魚津テクノスポーツドーム「ありそドーム」

### 第33回

〈入賞〉▽愛知県厚生連渥美病院▽オンワード樫山名古屋支店ビル▽中山道広重美術館▽岐阜県立森林文化アカデミー▽Zoo（ずだじ幼稚園）▽静岡市斎場　火葬棟▽立山酒造本社工場〈住宅部門・入賞〉▽芸術監督の家〈入選〉▽ケアハウスヘルパーステーションゴジカラ村デイサービス▽外宮神楽殿改築工事▽河芸町庁舎・防災センター〈住宅部門・入選〉▽K邸▽守山の家▽御薗村の箱型民家▽金沢泉野町の家（岩脇邸）

### 第34回

〈入賞〉▽小牧市スポーツ公園総合体育館「パークアリーナ小牧」▽可児市文化創造センターala▽醒井水の宿駅▽手づくり木工館「もく遊りん」〈住宅部門・入賞〉▽白露結界の家▽FURBO▽S.HOUSE(4SCREENS)〈入選〉▽設楽町立設楽中学校▽郡上八幡総合スポーツセンター▽掛川市立中央図書館▽戸田診療所▽溝口病院▽静岡　エコパ・スタジアム、エコパ・アリーナ▽大山町福沢地区コミュニティーセンター〈住宅部門・入選〉▽坂爪邸▽落葉松山荘▽S.house〈特別賞〉▽菱櫓、五十間長屋、橋爪門続櫓、橋爪一の門

### 第35回

〈入賞〉▽名古屋クロイゾンスクエア▽D-Square▽静岡ガス研修センター▽福井県立図書館・福井県文書館▽室尾犀星記念館〈住宅部門・入賞〉▽N家▽長浦の家▽ST邸▽ROOFTECTURE　丸岡〈入選〉▽トヨタ車体開発センター技術本館▽HX▽千種文化小劇場「ちくさ座」▽デイサービスセンターちゃぼ＋グループホーム弥生▽静岡県立静岡がんセンター▽浜松市総合体育館「グリーンアリーナ」▽石川県西田幾多郎記念哲学館▽森林公園インフォメーションセンター「わくわく森林ハウス」▽富山市民芸術創造センター新棟及びランドスケープ〈住宅部門・入選〉▽西春の家▽TRUNK～TRUE THINK～〈特別賞〉▽楞厳寺

### 第36回

〈入賞〉▽名大野依記念物質科学研究館・学術交流館▽高山市立南小学校▽ローランド浜松研究所増築▽安曇野高橋節郎記念美術館〈住宅部門・入賞〉▽公園前のガレージハウス▽デッキハウス〈入選〉▽武豊町民会館ゆめたろうプラザ▽愛知淑徳大星ヶ丘キャンパス1号館▽おまかせくんショップ静岡八幡サービスステーション▽TYOTA INSTITUTE GLOBAL LEARNING CENTER▽B／M（米原町立米原幼稚園）▽石川県こまつ芸術劇場　うらら▽新湊市立堀岡小学校〈住宅部門・入選〉▽Ka-residence（Ka邸）▽ITO HOUSE〈特別賞〉▽星ヶ丘テラス▽螢屋

### 第37回

〈入賞〉▽中国木材名古屋事業所▽青少年公園茶室　香流亭▽岐阜県花のミュージアム▽中部国際空港旅客ターミナルビル▽野々市町役場庁舎〈住宅部門・入賞〉▽額田の家〈入選〉▽栄三丁目ビルディング・LACHIC▽日本赤十字豊田看護大学▽産業技術記念館10周年記念事業▽こばと幼稚園絵本館▽岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ▽福井県立病院病院本棟▽福井県立南越養護学校〈住宅部門・入選〉▽GONTAGON▽イワタノイエ▽押水の住宅〈特別賞〉▽ノリタケの森▽くらしの学校「だいだらぼっち」in南信州「やすおか村」

### 第38回

〈入賞〉▽あいち海上の森▽椙山女学園大学　生活科学部棟▽土岐市泉小学校▽東洋沪機（ROKI）グローバル本社ビル〈入選〉▽Springtecture O-RUSH天白▽ながしま遊館▽サンビレッジ大垣▽金城学院大学W9・10号館▽いなべ市立石榑小学校▽金沢大学自然科学系図書館▽富士ゼロックスイメージングマテリアルズ▽養命酒健康の森　記念館▽テラス蓼科　リゾート＆スパ〈住宅部門・入選〉▽美和町の家▽OPUS1〈特別賞〉▽トヨタ自動車本館▽福井まちなか文化施設響のホール

### 第39回

〈入賞〉▽ミッドランドスクエア▽牧之原市相良総合センター▽YKK50ビル　リノベーション2006▽南山高等学校・中学校女子部▽横河電機金沢事業所〈住宅部門・入賞〉▽泉町の家▽軽井沢離山の家〈入選〉▽ク・ラ・シ・ティ・半田▽文化のみち　百花百草▽INAXライブミュージアム　土・どろんこ館▽FLAMME-IGA COMPLEX▽飛騨市文化交流センター▽富山市小見地区コミュニティセンター〈住宅部門・入選〉▽田縁生活▽T　HOUSE▽金沢・片町の家▽森泉山麓の家〈特別賞〉▽名古屋ルーセントタワー

### 第40回

〈入賞〉▽モード学園スパイラルタワーズ▽三重県立熊野古道センター▽五十鈴茶屋▽いしかわ総合スポーツセンター▽北日本新聞創造の森越中座▽小谷村立小谷小学校▽佐川美術館樂吉左衛門館〈住宅部門・入賞〉▽3POKO▽安城の家▽隙屋〈入選〉▽稲沢市立中央図書館▽碧南市藤井達吉現代美術館▽若狭町地域福祉推進拠点施設「五湖の郷」▽富山市立芝園小学校・芝園中学校〈住宅部門・入選〉▽伊那谷の船枻家〈特別賞〉▽岐阜シティタワー43〈住宅部門・特別賞〉▽東の南House

31―40回の入賞・入選・特別賞を掲載します。1―20回は記念誌、21―30回は記念CDが刊行されました。

財団法人 東海建築文化センター　理事長 近藤俊夫
財団法人 愛知県建築住宅センター　理事長 山北康雄
社団法人 日本建築家協会 東海支部　支部長 服部滋
社団法人 日本建築協会 東海支部　支部長 佐伯博
社団法人 愛知建築士会　会長 市川三千男
社団法人 愛知県建築士事務所協会　会長 岡田利一
社団法人 岐阜県建築士会　会長 藤井孝一
社団法人 静岡県建築士会　会長 大澤稔
社団法人 愛知県建設業協会　会長 増永防夫
社団法人 日本電設工業協会 東海支部　支部長 野田泰弘
社団法人 愛知電業協会　会長 野田泰弘
有限責任中間法人 愛知県空調衛生工事業協会　会長 足立哲
いいインテリアのある場所にはいい生活がある。SANGETSU http://www.sangetsu.co.jp
JIC 日本インシュレーション株式会社 中部支社 名古屋市中区新栄1-35-8（パレンティア新栄）☎052(243)0061代表 FAX.052(243)0063 ホームページ http://www.jic-bestork.co.jp/
株式会社 青島設計 AOSHIMA ARCHITECTS & ENGINEERS INC 名古屋 (052) 262-2341 東京 (03) 3582-2341 URL http://www.aoshimas.co.jp
株式会社 伊藤建築設計事務所　代表取締役会長 織田愈史　代表取締役社長 森口雅文
株式会社 浦野設計 URANO ARCHITECTS & ENGINEERS ISO 9001　取締役会長 浦野三男　代表取締役社長 浦野廣高
株式会社 大建設計 名古屋事務所　代表取締役社長 平田義秀　取締役執行役員所長 五十嵐博行
株式会社 東畑建築事務所 名古屋事務所　取締役社長 谷淳之介　常務執行役員名古屋事務所長 佐伯博
株式会社 中建築設計事務所　代表取締役会長 森川礼　代表取締役所長 廣瀬高保
NIHON SEKKEI 株式会社日本設計 中部支社　代表取締役社長 六鹿正治　常務執行役員支社長 桑名寛一
日建設計　代表取締役社長 岡本慶一　常務執行役員名古屋代表 小堀徹
名工建設株式会社　代表取締役社長 増永防夫
YAHAGI 矢作建設工業株式会社　取締役社長 山田文男
OBAYASHI 株式会社大林組 名古屋支店　専務取締役支店長 中村雄二
清水建設株式会社 名古屋支店　専務執行役員支店長 吉田和夫
TAISEI 大成建設株式会社 名古屋支店　常務支店長 鎌田勝
株式会社 竹中工務店 名古屋支店　支店長 西山正直
株式会社 奥村組 名古屋支店　支店長 木全和明
KUMAGAI 熊谷組 名古屋支店　常務執行役員支店長 武藤隆夫
TEKKEN 鉄建 名古屋支店　執行役員支店長 市脇冨久男
飛島建設株式会社 中日本建築支社　執行役員支社長 五十嵐巳代治
Hazama ハザマ 名古屋支店　執行役員支店長 木下壽昌
MAEDA 前田建設工業株式会社 中部支店　執行役員支店長 今井努
戸田建設株式会社 名古屋支店　執行役員支店長 鷲見喜久夫
鴻池組 KONOIKE CONSTRUCTION CO.,LTD. 名古屋支店　常務執行役員支店長 谷口昌和
錢高組 名古屋支店　執行役員支店長 池溝康雄
川北電気工業株式会社　取締役社長 大津正己
株式会社 関電工 名古屋支店　執行役員支店長 木下一雄
Kinden きんでん 中部支社　取締役専務執行役員支社長 伊藤倖一
三機工業株式会社 中部支社　常務執行役員支社長 安藤憲正
SNK 新日本空調株式会社 名古屋支店　上席執行役員支店長 片山勝久
新菱冷熱工業株式會社 名古屋支社　常務取締役支社長 小川利夫
TAISEI ONCHO 大成温調株式会社 名古屋支店　執行役員名古屋支店長 松本則夫
ダイダン株式会社 名古屋支社　取締役常務執行役員支社長 土川章
高砂熱学工業株式会社 名古屋支店　取締役常務執行役員支店長 西山修
TOENEC トーエネック　取締役社長 野田泰弘
東光電気工事株式会社 中部支社　執行役員支社長 菊地潔